

外国語教育が変わります！

「小学校」では2020年度から…

3、4年生から「外国語活動」が新たに始まります。

- ・授業時数が週1コマ(年間35単位時間)増加します。
- ・「聞くこと」「話すこと」を中心に、外国語に慣れ親しみます。

【Check!】

これまでは、5、6年生のみ、「外国語活動」を週1コマ程度実施

5、6年生では「教科」になります。

- ・授業時数が週1コマ(年間35単位時間)増加します。
※これまで「外国語活動」が週1コマ → 「外国語科」が週2コマに
- ・段階的に「読むこと」「書くこと」が加わります

※2018、2019年度は、移行措置期間です。

- ・3、4年生は、新たに15単位時間を確保し、外国語活動を実施します。
- ・5、6年生は、新たに15単位時間を加え、外国語活動に加えて外国語科の内容を扱います。
(ただし、移行期間中の特例として、15単位時間を限度として総合的な学習の時間を減らすことができます。)

外国語教育が変わります！

「中学校」では2021年度から…

- ・授業は外国語で行うことが基本となります。
- ・対話的な活動や、実際に活用する言語活動を重視します

【Check!】

授業時数は変わりません。
(全学年で週4コマ程度、教科の中で最多)

「高校」では2022年度から…

- ・「聞く」「読む」「話す(やり取り・発表)」「書く」、を総合的に学び、発信力を高めます。

「大学入試」では2020年度から…

- ・外部検定試験を活用し、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能が評価されます。

「小学校 外国語活動」の改訂のポイント

- 各学校段階の学びを接続させるため、国際的な基準を参考に、小・中・高等学校で一貫した領域別の目標を設定。外国語活動においては、聞くこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕の三つの領域で設定した。
- 高学年から、段階的に文字を読むこと、書くことを加え、教科（年間70単位時間）として系統性を持たせた指導を行うことを踏まえ、中学年から、聞くこと、話すことを中心とした外国語活動（年間35単位時間）を導入し、外国語に慣れ親しませ、外国語学習への動機付けを高める。

1. 中学年における外国語活動導入の趣旨

- 高学年から、段階的に文字を読むこと、書くことを加え、教科（年間70単位時間）として系統性を持たせた指導を行うことを踏まえ、中学年から、聞くこと、話すことを中心とした外国語活動（年間35単位時間）を導入し、外国語に慣れ親しませ、外国語学習への動機付けを高める。

2. 目標の改善

- 外国語教育において育成を目指す資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から、国際的な基準を参考に、小・中・高等学校で一貫した、領域別の目標を設定した。外国語活動においては、聞くこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕の三つの領域において英語の目標を設定している。

3. 内容構成の改善

- 「(1) 英語の特徴等に関する事項」を知識及び技能として、「(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」を思考力、判断力、表現力等として、言語活動や言語の使用場面、言語の働きの例を「(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項」として整理した上で、知識及び技能に示す事項を活用して、言語活動を通して、思考力、判断力、表現力等を指導することとした。

4. 学習内容の改善・充実

- 知識及び技能については、実際に外国語を用いた言語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにすることとした。
- 思考力、判断力、表現力等については、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うこととした。

5. 学習指導の改善・充実

- 言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、外国語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする事とした。
- 外国語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いて友達とのかかわりを大切にした体験的な言語活動を行うこととした。

「小学校 外国語科」の改訂のポイント

- 各学校段階の学びを接続させるため、国際的な基準を参考に、小・中・高等学校で一貫した、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別の目標を設定。
- 中学年から、聞くこと、話すことを中心とした外国語活動（年間35単位時間）を導入し、外国語に慣れ親しみ、学習への動機付けを高めた上で、高学年から段階的に文字を読むこと、書くことを加え、系統性を持たせた指導を行う教科（年間70単位時間）として位置付ける。

1. 高学年における外国語科導入の趣旨

- 中学年から、聞くこと、話すことを中心とした外国語活動（年間35単位時間）を導入し、外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から段階的に文字を読むこと、書くことを加え、系統性を持たせた指導を行う教科（年間70単位時間）として位置付ける。

2. 目標の改善

- 外国語教育において育成を目指す資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から、国際的な基準を参考に、小・中・高等学校で一貫した、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域において英語の目標を設定。

3. 内容構成の改善

- 「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」を知識及び技能として、「(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」を思考力、判断力、表現力等として、言語活動や言語の使用場面、言語の働きの例を「(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項」として整理した上で、知識及び技能に示す事項を活用して、言語活動を通して、思考力、判断力、表現力等を指導することとした。

4. 学習内容の改善・充実

- 知識及び技能については、実際に外国語を用いた言語活動を通して、外国語の音声や文字などについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにすることとした。
- 思考力、判断力、表現力等については、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるよう指導することとした。

5. 学習指導の改善・充実

- 言語材料については、発達の段階に応じて、児童が受容するものと発信するものがあることに留意して指導することを明記した。
- 「推測しながら読む」ことにつながるよう、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現について、音声と文字とを関連付けて指導することとした。
- 文及び文構造の指導に当たっては、文法の用語や用法の指導に偏ることがないように配慮して、コミュニケーションの中で基本的な表現として繰り返し触れることを通して指導することとした。